

The Story of an English Teacher

片桐英数塾通信

Be crazy about what you believe!
I'm sure you will find your own story.

話が違わないか。目を閉じ、腕を組み、頭を捻りながらブツブツ言う。

今、実は今年最後の塾通信に何を書くかに頭を悩ませている。「この塾通信も、今号で九〇号。随分続いたものだ」と、素直に驚く。「何か塾の通信みたいなのを書いてみようか。一月毎の持ち回りで」ということで、陸先生、綾美先生と話し合っ

た。たしかに、最初は私が書き、次には綾美先生が書き、その次に綾美先生が書いた。しかし、陸先生と綾美先生は、その一度が最初で最後となり、そして合格体談的なものが一回、卒業生からのメッセージが一回、それ以外は、おだてられ、祭り上げられ、持ち上げられ、たぶらかせられながら私が書き続けている。もともと書くという習慣の無い私にとっては、何を書くかを決める「とすら重労働で、どうしようもなくなった時に、たまにこうやってブツブツ一人て文句を言い、ささ

やかなストレスの解消をしています。こうやって頭を捻っている時に思いつく言葉があります。それは「馬上」「枕上(ちんじょう)」「厠上(しじょう)」という言葉です。千

年くらい前の古い中国の言葉で、物事を考えるに適した場所を表している言葉だそうです。三上と言いま

す。「馬上」というのは、昔でしたら馬の上、今でしたら車や電車やバスや自転車や、とにかく乗り物の上という事です。「枕上」というのは文字通り「枕(まくら)の上」ですから、布団やベッドにいる時を意味します。また、「厠上」とはトイレを意味します。

実は、私は、「厠上」で頑張りながらブツブツ文句を言っておりま。二〇一三年も最後の塾通信なのにスミマセン。「あ、なるほど。だから今、私は知らず知らずながら考え事をトイレでするんだな」と、ふと納得しています。これまで、いろんな考え事をするのは、学生の頃なら自転車をこいでる時だったし、今なら車を運転しながらだし、寝る前にいろんなことを考えてみたりするし、トイレで考えると割といるんなことを落ち着いて考えられるし。なかなかのを得た良い言葉じゃないか、とさ

らに納得しております。

そう言えば、随分昔のことではっきりと覚えていないのですが、トイレを活用していたことが新聞記事になった人がおりました。何を隠そう、陸先生であります。あまり本人は

言いたがらないのですが、『第一七回全国中学校・高等学校教員英語弁論大会(一九七九年)』で最優秀賞・文部大臣賞を受賞しています。その時、新聞記者に取材され「練習はトイレでしていた」という言葉が記事となったのでありま

した。その時、あれもトイレだった!と思いついた私は、その新聞記事をもう一度見たいと思ひ、早速、「厠上」を離脱したのであります。が、父母にその記事を探してもらいましたが見つかりません。私としてはとても残念です。よく考えれば、お

恥ずかしながら、全国で最優秀賞を受賞した時の原稿を、私はまだ一度も見たことが無いことに気が付きました。陸先生に聞くと、「まあ、どこかにあるじゃろ」とどきどき

とを言うもので、そこを何とか「今でしょ」と騒ぎ、押し入れの奥の方から発見してもらいました。

その原稿を読んでいきますと、読んでいくにつれ、この原稿の内容とは関係ない当時の様子や父が弁論大会に挑み続けたのは八年に渡り、それは私の幼稚園や小学校の低学年の時でした。その当時の父は近寄りたがらない、そんなオ

ラをまとっていました。この原稿は、そんな当時の父を思い出させてくれました。私の幼少期、父とどこかに出かけたという記憶は、本

当に「くわすかし」かありませぬ。父は英語に没頭し、生徒のことばかりを心配し、家庭的とはとても言えるような人ではありませぬでした。特に英語に向かう姿勢は、「熱心」などの言葉では物足りませぬ。まさに「crazy」だったと思

います。狂っていると言っても過言ではなかつた。幼心に、「なんでうちの家の中は、どこに行っても英語のカセットテープがかかっているんやろ」と不思議に思うほど、家中、英語の音声だらけでした。父の運転する車に乗っていると、信号待ちの度にブツブツ英語を言うし、たぶん英語か生徒のことを考えているのでしよう

が、車はフラフラするし、これまたたまりませぬでした。ああ、そうだったのか。幼い私にはあまり触れたくなく、思い出したくないものだったから、それで今までのこの原稿を見ようとしなかつたんだな。そんなことを思いました。

しかし、この原稿を読み終わった時、私の中になんか強烈な衝撃が走ったのは確かです。幼い私には理解できなかった当時の「crazy」な父が求め

ていたものが理解できた、いや、理解してしまつた驚き、ためらい、そして共感……。とにかく私には相当に複雑で強烈なものでした。「これだったのか。父の熱中していたものは、それなら早く言ってくれよ」。ま、こんなところが私の本心でございます。

弁論大会のスピーチには八分間という時間制限があります。そのわずかに八分間に全力を注ぎ込みます。その八分間の間に、信じられないような努力をします。そのわずかに八分間を極めるには、膨大な努力が必要となるのです。その八分間のために向かっていく姿勢を、たとえ「crazy」と呼ばれようと、そのがむしゃらでひたむきな姿勢を生徒たちに見せることで、生徒に「学ぶことの尊さを教える」としていったのです。

幸いにもこの原稿によるスピーチで、陸先生は最優秀賞を受賞しました。一度最優秀賞を頂くと、もうこの弁論大会に出場することはできません。確かに最優秀賞を受賞した時は喜んでいました。家族もみんな喜んでいました。しかし、この無限の八分間を失ったことは、随分と寂しかったに違いない。息子としてはそんなことを思うのです。

さて、その後の陸先生はと言いますと、さらに英語を極めるために、徹底的に辞書を読み込んでおります。恐らく、辞書一冊くらいは暗記しているのではないのでしょうか。今でも、毎年、二冊は新しく辞書を買ひ、心機一新しながら読み込んでいます。

「教師が生徒に背中中で指導できんぞどうする。教師が勉強せんといて、何で生徒に勉強するように言えるんじや」。陸先生がよく言う言葉なのですが、この原稿を読んだ今となっては、「この言葉にただただうなずくばかりではいけません。塾通信の題材として、陸先生はあまりに身内過ぎて、正直なところ書こうかどうしようかと迷いました。ただ、恥を忍んでも書く価値はあるように思ひ書かせて頂きました。裏面に当時の原稿を掲載致します。訳文は本人の希望により掲載致しません。悪しからずご了承下さい。」

さて、その後の陸先生はと言いますと、さらに英語を極めるために、徹底的に辞書を読み込んでおります。恐らく、辞書一冊くらいは暗記しているのではないのでしょうか。今でも、毎年、二冊は新しく辞書を買ひ、心機一新しながら読み込んでいます。

「教師が生徒に背中中で指導できんぞどうする。教師が勉強せんといて、何で生徒に勉強するように言えるんじや」。陸先生がよく言う言葉なのですが、この原稿を読んだ今となっては、「この言葉にただただうなずくばかりではいけません。塾通信の題材として、陸先生はあまりに身内過ぎて、正直なところ書こうかどうしようかと迷いました。ただ、恥を忍んでも書く価値はあるように思ひ書かせて頂きました。裏面に当時の原稿を掲載致します。訳文は本人の希望により掲載致しません。悪しからずご了承下さい。」

さで、その後の陸先生はと言いますと、さらに英語を極めるために、徹底的に辞書を読み込んでおります。恐らく、辞書一冊くらいは暗記しているのではないのでしょうか。今でも、毎年、二冊は新しく辞書を買ひ、心機一新しながら読み込んでいます。

「教師が生徒に背中中で指導できんぞどうする。教師が勉強せんといて、何で生徒に勉強するように言えるんじや」。陸先生がよく言う言葉なのですが、この原稿を読んだ今となっては、「この言葉にただただうなずくばかりではいけません。塾通信の題材として、陸先生はあまりに身内過ぎて、正直なところ書こうかどうしようかと迷いました。ただ、恥を忍んでも書く価値はあるように思ひ書かせて頂きました。裏面に当時の原稿を掲載致します。訳文は本人の希望により掲載致しません。悪しからずご了承下さい。」

受講生募集中! 小学6年生特別講座

君たちの可能性は無敵大!! 『わからないことがわかった!!』
『できなかったことができるようになった』それが少しずつ積み重なって、大きな夢が実現できます。『わかった』と『できた』をたくさん経験すれば勉強が楽しくなってきます。その学習習慣を今から一緒に身につけていきましょう!!

毎週土曜日(月4回) 14:00~16:00
お問い合わせは坂本教室まで!

~受講生の声~

- ・数学と生物の「センター試験対策」を受講していました。ポイントをおさえて学ぶことができ、センター過去問の演習もできたのでよかったです。センター前には、わからない部分を繰り返し復習しました。(M.Aさん)
- ・センター試験対策地理Bの瀬川先生には何度も励ましてもらいました。受験勉強中、気持ちが落ち込んだ時には、瀬川先生の言葉を聞くために映像ブースに行くこともありました。(K.Yくん)

片桐英数塾からのお知らせ

坂本教室の12月のお休みは、
1日(日)、8日(日)、15日(日)、
22日(日)、29日(日)、31日(火)です。

※12/31(火)は年納め学習会を行います、通常の自習室の開放はいたしません。

お迎え時の車の混雑について、保護者の皆様にご理解とご協力をお願いします。お迎えの際には、駐車場内での安全走行、エンジン停止にご協力いただくとともに、ご近所出入口などでの路上待機、他の駐車場の無断使用などはご遠慮いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

HPアドレス <http://www.katagirijuku.com>
メールアドレス katagirijuku@docomo.ne.jp

~まだ間に合う!センター対策~

各教科万全にしておきたいけれど、この時期何をやっていいかと迷っている人、この短時間でどうにか得点アップにつなげたいという人、要点をおさえた河合サテライト講座で自信をつけよう。とくに文系生は理科、理系生は地歴公民を後回しにしがち。今から受講しても間に合うおすすめセンター対策講座をご紹介します。

(高1、高2生向けの講座もあります)

- 【理科】◎センター試験対策物理I<実戦編>
◎センター試験対策生物I<実戦編>
◎センター試験対策化学I<実戦編>
- 【地歴】◎センター試験対策日本史B
◎センター試験対策世界史B
◎センター試験対策地理B<系統地理編><地誌編>
- 【公民】◎センター試験対策政経 ◎現代社会 ◎倫理
- 【国語】◎センター試験対策国語(現代文+古文+漢文)
- 【英語】◎センター試験対策英語<リスニング対策編>
- 【数学】◎センター試験対策数学<標準編><実戦編>

体験受講・相談 随時受付中! 坂本教室まで!

Why I Am Here Today

Takashi Katagiri

During the past seven years, I have made five speeches in this speech contest. Some of my friends have asked me, "Why do you participate in that speech contest so often?" Others said to me, "We would rather buy books and study at home than go to Tokyo to speak English for only eight minutes." Let me tell you why I decided to enter this speech contest seven years ago. At that time, I was teaching at a commercial high school.

One day during the lesson, a boy suddenly stood up and yelled, "Sir, we don't like your English lesson; you always tell us to study and you give us a lot of homework, but what are you teachers doing? You teachers are relaxing in the teachers' room, chatting and smoking. Are you teachers studying as much as you want us to study?" All the rest of the students clapped their hands indicating their agreement with him.

Was I doing my best to improve my own English ability? No. Was I trying to discover more effective methods of teaching the students? No. Then what was I doing for them? I compelled them to study regardless of their interest or ability by giving them much homework and many tests, and if they didn't follow me, I labeled them incapable students. That was all I had done for them. "Are you studying as much as you want us to study?" The student's voice lingered in my ears for a long time. Finally I said to myself, "I will cultivate myself and show

the students my sincere attitude toward the study of English." In this way I decided to take part in this speech contest. I told the class about my decision, but they were indifferent to me. Even when I handed them my text for the contest, they paid no attention to it.

But, whenever I found time between lessons, I stood before the students to practice my speech. A few students listened to me with the texts on their desks, but most of them laughed at me and sang as if to show their indifference. I had an American record my text and asked the students to compare my English with that of the American's. A few girls accepted my request and made a careful comparison of my English with the American's. Their English was not good enough to point out my mistakes in pronunciation or sentence structure, but they could notice my wrong phrasing. One of the girls bought a book on "Speech" and made me such suggestions as "Don't make such big gestures." or "When you are speaking, look at all the audience."

The number of students interested in my speech increased day by day and the classroom became the place for me to practice it.



Two days before my departure for Tokyo, some students wrote on the blackboard, "We wish you great success in the contest." With their warm-hearted encouragement in my mind, I stood on this stage for the first time. Though I didn't receive a prize, this experience created a great incentive to study for all of us.

Urged by the students, I made up my mind to enter the contest the following year and I talked about their flower growing in the school garden. They were curious about my text entitled "Flowers and My Students" and used their dictionaries to see what was written in it. Some recorded my speech on their tape-recorders and memorized it. One day, the boy who had criticized me the year before said to me, "Sir, I am sorry I was lazy last year. I will study English as hard as you. Here is a potted flower which I grew myself. Please show this flower to the audience in Tokyo."

Six years ago, I stood here with that potted flower on the table and in that contest, I won a prize. On coming back to the classroom, I was presented a bunch of flowers with a brief note attached to it in which was written "Congratulations on your success in the contest. We are proud of you."

Where they had once complained of my harshness and neglected my admonitions, now they were willing to

study. Where they had once been reluctant to use dictionaries, now they were eager to consult them. Where they had once been negligent in using their tape-recorders, now they became constant listeners. They did follow me when I tried to improve myself. Each year that I entered the contest, I came with the warm support and enthusiasm of my students followed by their emulation of the example I set them.

About four months ago, at a class reunion, my former students talked about their high school days. All of them said that they would never forget my speech for this contest. And to my great surprise, they remember my text even now. They said, "This English is a treasure of our youth."

Today, we blame the young for being too weak to cope with difficulties, but are we adults strong? We grown-ups grieve over young people's impoliteness, but are we polite? I am here today not because of any exceptional skills in speaking English but because I firmly believe that only by improving myself, can I expect the young to want to improve themselves.

To speak for just eight minutes may be only one small drop of water, but I am sure this will become a big ocean when the young follow me.



これは、隆先生が『第17回全国
中学・高等学校教員英語弁論大会(1979年)』で、
最優秀賞・文部大臣賞を受賞した時の原稿です。
本人の希望により訳文は掲載しておりません。ご了承ください。